

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第113号

令和2年7月14日

発行=四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

楠正行に関する研究論文大募集！入賞作品決まる

最優秀賞に、廣木双葉氏の「新しい楠正行像を紡ぐ点と線」

7/1 入賞3論文掲載・論文集「小楠公」創刊！

● 全国から8論文集まる ●



四條畷市制施行 50周年記念協力事業「楠正行に関する研究論文大募集！」(主催:四條畷楠正行の会/後援:四條畷市・四條畷市教育委員会・四條畷神社・産経新聞社・奈良

新聞社・四條畷市立教育文化センター指定管理者阪奈エタープライズ(株))は、5月31日に応募を締め切りましたところ、全国から8論文が寄せられました。

東修平四條畷市長、安本寿久産経新聞大阪本社編集委員、四條畷楠正行の会扇谷昭代表の3人で構成する審査会で選考の結果、下記のとおり「最優秀賞」「優良賞」表彰2作品が決定しました。

**第9回楠正行シンポジウムで表彰**

また、2作品に次ぐ高い評価を得た1論文に審査会奨励賞を新たに設け、贈ることとしました。表彰は令和3年3月開催予定の第9回楠正行シンポジウムの会場で行います。

なお、3作品は四條畷楠正行の会創刊の論文集「小楠公」(市制施行50周年記念日/7月1日発行)に掲載。

■四條畷市制施行50周年記念協力事業「楠正行に関する研究論文大募集！」の入賞作品

●最優秀賞 賞金10万円・記念品  
新しい楠正行像を紡ぐ点と線



7/14 「小楠公」創刊号・発売

体裁 A4版 縦2段組み フルカラー 72頁

頒価 ¥500円(別途送料)

内容:「人物叢書・楠正行」扇谷昭・入賞3論文

◇お申し込み:四條畷市立教育文化センターまで

Tel & fax 072-878-0020

メール kyobun@pure.ocn.ne.jp

一楠正行にまつわる寺社、系譜と叙位記録一

廣木 双葉 (東京都江戸川区)

●優良賞 賞金3万円・記念品

「楠公精神」における楠正行の存在を考える

藤岡 巧一 (四條畷市)

●審査会奨励賞 賞金1万円・記念品

楠正行の魅力

～忠臣伝説を越えて～

西村 朋子 (大阪市住吉区)

**3論文の概要**

**改めて正行の存在を見直す**

廣木双葉氏の論文「新しい楠正行像を紡ぐ点と線」は、茫然とした楠正行像やその歴史的位置づけについて、現存する史跡記録や資料を通じた歴史的検証を試みることで、その実態化を図ろうとする意欲的な作品である。

一つには、正行を祀る寺社から正行信仰の広がりや地方の伝承を含めた市井の人々の正行への信奉を繙き、二つには家系図から見る正行の係累における位置づけと後衛の行動、そして三つ目には正行の叙位経緯からみる近代政治的な位置づけから改めて正行の歴史的存在を見直

## 他の5論文の概要

入賞した3論文以外の5論文は、以下の通り。

### 【応募論文】

#### 1. 父、正成の後ろ姿を追った正行

正行には龍覚坊と正成、という二人の師がいたと説き起こす。正成、正行父子の博愛精神・無私の心を論じ、正行の尊氏との和睦論に触れる。二人の最期の出陣に触れ、後継者に兵力を残したことを評価する。

(四條畷市)

#### 2. 鎌倉時代末期から南北朝時代と楠正行

正行は全国でもっと広く深く知られるべき人物であるとして、鎌倉時代末期から南北朝に至る正行の事績を分かりやすく述べた内容となっている。筆者は、正行がこの論文で多くの人に知ってもらえるきっかけとなるならば幸甚である、と結んでいる。

(奈良県生駒市)

#### 3. 四條畷神社の成立過程と楠正行

地域の歴史を知ることは、自己のルーツをたどりながらのアイデンティティの確立といえるとして、四條畷神社がなぜ当地に創建されたのか、また祭神の正行と四條畷の関わりについて論を進める「地域史」である。四條畷神社は、明治天皇から地域へのプレゼントである、地元の宝である、と。

(四條畷市)

#### 4. 楠木正行の教育思想に関する考察

##### —龍覚・時親から正成へ—

南北朝時代を代表する勇猛果敢・知略に富んだ武将、正成がその嫡子正行に対しどのような教育思想を持っていたのか、幼少期の正成が受けた教育を繙くことから、正行がどのような教育思想を持つに至ったかを考察している。正行の精神は、正成の臣道としての忠義と久子の訓戒によって成し得たと結論づける。

(四條畷市)

#### 5. 楠正行への思い

正行と偶然に巡り合った体験を記し、正行の事績を振り返りながら正行論を進め、正行は、今の日本ではあまり存在しない人物であり、純粋に人のために働くことのできる人物であったと論じる。そして、正しいことに命掛けて進むことは苦勞した人間でなければ覚悟は生まれぬ、と指摘する。

(四條畷市)

= お礼 =

本事業の趣旨にご賛同いただき、ご応募いただきました皆様、ありがとうございました。

入賞作品は論文集「小楠公」に掲載・公開します。また他の5作品は四條畷楠正行の会で大いに活用させていただきます。

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)

す、以上から浮かび上がる新しい正行像と、それを紡ぐ点と線＝歴史のエビデンスについて論じようとするものである。

## 楠公精神のパワーを強化した正行

藤岡巧一氏の論文『楠公精神』における楠正行の存在を考える」は、楠公精神とは”真心のメッセージ”であるとして、「楠公精神」の「体」(実態・本質)・「相」(姿・形)・「用」(働き・機能)の3つの観点から著者流の解釈を加えることから論を起こしている。

そして、「楠公精神」は国づくりと人づくりの鑑と呼べるのではないかと提起し、正行の存在に論を進める。

「完成度を高める」「要人が共鳴する」「輝きを増す」という3つの側面から楠公精神のパワーを強化した正行の存在意義を説くものである。

## 愛という切り口から正行の心理面に迫る

西村朋子氏の論文「楠正行の魅力」は、著者の幼いころの正行に関する賛否相反する体験話から始まる。

次に、歴史上の正行を論じ、「正行には自身の進路を選択する余地はなかった」として、困難な命題に取り組み続け短い人生を駆け抜けた姿に、驚嘆と同情を禁じ得ず、様々な伝説を残したという。

その伝説のキーワードは「愛」ではないかと提起し、親子愛・兄弟愛・一族や部下への愛・恋愛・博愛・敬愛と論を進め、「楠正行」という魅力的な人物が我々の前に立ち現れる、という。

楠氏の出自についても「楠氏石切り場跡」遺跡に触れながら、大胆にも正行が最後に吉野朝廷に献策したであろう作戦は、「四條畷ではない」作戦だったと思う、と。

## 審査会での講評

審査会での講評(概要)は以下の通り。

### 論文力の高かった入賞2作品

#### 奨励賞は「愛」のキーワードに説得力

最優秀賞の広木論文は、王道のアプローチをとることで、論文として格調が高いものになったこと、また、文献と史料を読み込み、ポイントを絞った現地取材で多くの気づき＝発見を読者に与え、一つの考察・仮説を立てるという手法など、最も高い評価を得た。

優良賞の藤岡論文は、その表面から内実までを多彩な文献や現象から分析し、その影響の広がりや考察している綿密さが評価された。また、貞観政要との結びつきで論述を試みた手法に興味やわくとの指摘もあった。

審査会奨励賞の西村論文は、「愛」という切り口から正行の心理面を具にとらえようとした記述は読み進むにつれて映像まで浮かんでくるような錯覚すら覚えるとの講評を得た。「愛」が正行のキーワードとの問題提起に説得力がある、とも。